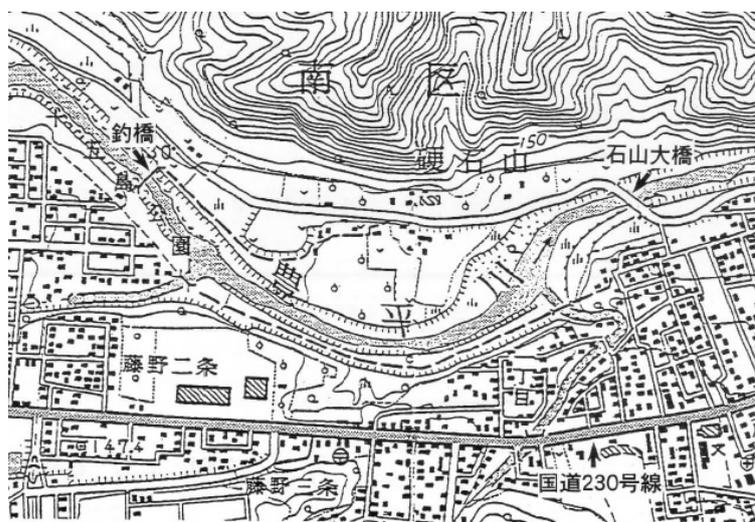


## 十五島公園 (札幌市南区)

小堀 煌治

十五島公園は昔からジンギスカン鍋の名所として知られ、芝生に桜や梅が植えられ、整備された普通の公園ですが、周囲を良く見るとなかなか味のある所です。

この辺りは豊平川の河岸段丘がつくった傾斜地が続いているので宅地化を免れ、自然が残っています。地質的にも面白く、柱状節理が見られ、川原では二枚貝やアンモナイト



十五島公園周辺図

の化石も出ます。鳥や植物を観察するなら公園の喧騒を避け、釣橋を出発し散策路を下流に向かいます。川にも目をやりながら森の小道を進むと、春にはハクセキレイ、キセキレイ、セグロセキレイ、アオサギ、イソシギが見られます。近年コチドリが見えなくなったのが残念です。森の中ではカラ類やアオジ、ヤブサメ、コルリ、オオルリ、キビタキ、アカハラ、クロツグミ、ヒヨドリ、メジロ、ニューナイスズメなど、早春にはルリビタキやコマドリも姿を見せます。フクジュソウ、カタクリ、ニリンソウ、シラネアオイなども観察できます。初夏から夏はアオバトの声も聞こえ、途中、小道を横切るオカバルシ川(白鳥園の裏の川)などの橋の上で立ち止まって下さい。運が良ければ巣立ち雛を連れたヤマセミやカワセミに会うことがあります。8月に入るとこんな上流部に毎年のようにセグロカモメやウミウが入ります。3年前の秋口の夕方、上空がにわか騒がしくなったので、何ごとだろうと見上げるとハクチョウの群れでした。この時期、ベニマシコやカシラグカが渡って行きます。夜間は向いの山からコノハズクの声が聞こえますし、オオコノハズクの声も聞かれます。マムシグサ、ヤマブキシヨウマ、サラシナショウマ、ルイヨウショウマ、オオウバユリの群落もあります。冬は川の中が面白く、マガモ、カルガモ、ホオジロガモ、キンクロハジロ、カワアイサ、カイツブリ、カワガラスなどが見られます。森の中ではミソサザイ、オオアカゲラ、ヤマゲラ、アカゲラ、コゲラやレンジヤク類も入ります。

森を抜けると石山大橋に出ます。橋を渡り、無意根山を正面に見て上流に向かうと、視野

が開け、土手に出ます。対岸とは対照的な草原で、春はヒバリ、モズ、ホオジロの多い所です。ビンズイを見ることもあります。そのまま進むと出発点の釣橋に戻ります。所要時間はゆっくり歩いて1時間半から2時間。橋を渡った所の野草園も見ものです。全道の野草が集められ所狭しと植えられています。以上、雑駁ですが十五島公園の概要です。